

時事問題

國防充實ト増税

小川 郷 太郎

題シテ國防充實ト増税ト曰フ、第四十議會ノ問題タリシ國防充實計畫ニ伴ヘル増税案并ニ其成果ヲ論評シ、國防充實ノ爲ニハ如何ナル財源ヲ撰ハサルベカラサルカヲ明ニシ、國防充實ノ爲ニスル増税ト税制整理ノ爲ニスル増減廢税トハ如何ニ交渉スベキカヲ論究セントスルノミ、第四十議會ニ於ケル提案ハ過去ニ屬セリト雖トモ、國防充實ノ爲ニスル財源ノ撰擇、税制整理ノ爲ニスル租税ノ増減改廢ハ尙將來屢々起ルベキモノナルカ故ニ、茲ニ其學理并ニ根本ノ論點ヲ明ニセントス、之ヲ本篇ノ趣旨トス。

第一、國防充實ノ計畫ト其經費

大正七年度ノ豫算ハ國防ノ充實産業ノ發達教育ノ振興ヲ圖ルノ趣旨ヲ以テ編成セラレタリト云フモ、大正七年度ニ於テ新事業其他ノ理由ニ依テ新ニ經費ノ要求セラレタルモノニ就テ之ヲ見ルニ、産業發達ノ爲ニスルモノハ千參百七拾餘萬圓ニシテ教育振興ノ爲ニスルモノハ千貳百餘萬圓

ナリ、前者ニアリテハ製鐵所ノ擴張費カ千八百拾五萬圓ヲ占メ後者ニアリテハ小學校教育國庫負擔ガ千萬圓ヲ占ム、故ニ是等ノ主要ノ經費ヲ減シテ之ヲ見レハ産業ノ發達教育ノ振興ノ爲ニ新シク費ス額ハ比較的少シト謂ハサルベカラズ、之ニ反シテ國防充實ノ爲ニセル經費ハ實ニ四千六百餘萬圓ニ上ル、大正七年度ノ豫算ガ國防充實ヲ中心トシテ編成セラレタルモノト云フモ過言ニアラザルヲ知ルベシ。

國防充實費ハ帝ニ大正七年度ノ豫算ニ現ハルルノミナラズ、將來ノ豫算ニモ亦現ハルベキモノトス、第四十議會ハ國防充實費ヲ繼續費トシテ協贊シタレバ也、而シテ其繼續費ノ額ト繼續年限ハ海軍ト陸軍トニ於テ同シカラズ。

●陸軍ニ於テハ歐洲戰爭ノ教訓ニ鑑ミ、現在師團ノ内容ヲ充實シ、兵器ノ威力ヲ大ナラシメンコトヲ期シ、騎兵機關銃隊、航空大隊(二中大隊ヨリ成ルニ一個大隊ノ新設)、自動車隊ヲ新設シ、野砲兵隊、重砲兵隊、鐵道聯隊、電信隊、輜重兵隊、衛戍病院、憲兵隊等ノ編成ヲ改正シ、砲兵工廠ノ擴張ヲ爲サントスル也、而シテ之カ爲ニ要スル經費ハ壹億八千餘萬圓ニ上ル、之ヲ十八年ニ割當ツレハ一年度分ハ平均壹千萬圓内外ナルベシ、今其割當ヲ表示スレハ左ノ如シ

| 年 度 | 經常費 | 臨時費 | 計 |
|-------|------------|------------|------------|
| 大正七年度 | 8,800,000 | 7,800,000 | 16,600,000 |
| 同八年度 | 10,000,000 | 9,000,000 | 19,000,000 |
| 同九年度 | 10,000,000 | 10,000,000 | 20,000,000 |
| 同十年度 | 10,000,000 | 11,000,000 | 21,000,000 |
| 同十一年度 | 10,000,000 | 11,000,000 | 21,000,000 |

時事問題 國防充實ト増稅

| | | | |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 同十二年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同十三年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同十四年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同十五年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同十六年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同十七年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同十八年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同十九年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同二十年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同二十一年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同二十二年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同二十三年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |
| 同二十四年度 | 八、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 | 一、〇〇〇、〇〇〇 |

●海軍ニ於テハ軍艦製造ノ計畫ヲ改メ、其隻數ヲ増加シ、海軍工廠ヲ擴張シ、準備軍需品(兵器燃料油等艦艇行動用準備品)ノ蓄積ヲ増シ、航空隊ヲ増設シ、無線電信所ノ設備ヲ爲サントス、之カ爲ニ要スル經費ハ三億四千餘萬圓ニ上リ、大正七年ノ割當ハ四千六百餘萬圓ナリ、此中ニ就キ製艦費ハ實ニ三億五十四萬圓ノ多キニ達シ、自ラ主腦ヲナス、之ヲ六ヶ年ノ繼續費トナスガ故ニ一年度分ハ平均五千餘萬圓トナルベキモ、大正七年度ハ二千五百四十餘萬圓ニ計上セリ。

是ニ由テ之ヲ觀レハ國防充實費ノ名ノ下ニ諸種ノ經費ヲ計上スルモ、其主ナルモノハ軍艦製造費ニ外ナラズ、サレハ國防充實費ノ財政上ノ意義ヲ知ラントセバ軍艦製造費ニ就テ明ニスル所ナルベカラズ。

軍艦ニ就テハ八八艦隊ヲ理想トシ來リシモ、未ダ之ヲ實現スルニ至ラズ、從來ノ計畫ニ依レハ

大正二年度以降大正十二年度ニ亘リテ四億千九十三萬圓ヲ支出シテ戰艦七隻巡洋戰艦二隻大型巡洋艦二隻小型巡洋艦八隻驅逐艦及潛水艇六十隻特務艦四隻合計八十四隻ヲ建造シ所謂八四艦隊ヲ完成セントスルニ過キサリキ、然ルニ歐洲戰爭ハ大艦巨砲ノ威力ノ大ナルヲ示スト共ニ潛水艇其他補助艦艇ノ勢力ノ侮ルベカラサルヲ教ヘタレバ、艦型ニ變更ヲ加ヘ艦艇ヲ増加シ最モ補助艦艇ヲ増加スルノ必要ヲ感シ、茲ニ製艦計畫ヲ改メ、既定計畫ノ艦型ヲ大ニシ更ニ隻數ヲ増加シ大正七年度以降大正十二年度ニ亘リ六年間ノ繼續費トシテ三億五十四萬八千四百三十七餘圓ヲ支出スルノ案ヲ立テタル也。

今此三億餘萬圓ノ製艦費増加ノ内容ヲ分析スレハ左ノ如シ

- (1) 計畫變更ニ對スル増加額 EITAKU, 401.4
- (2) 隻數増加ニ對スル増加額 三六、七六一、八〇〇
- (3) 物價騰貴ニ依ル増加額 一、九八、〇〇〇、〇〇〇

而シテ計畫變更ニ對スル増加額トハ戰艦二隻巡洋戰艦二隻大型巡洋艦二隻小型巡洋艦五隻大驅逐艦八隻中驅逐艦十七隻潛水艇十三隻特務艦三隻ニ付キ艦型ヲ大ニシ排水量ヲ増セルガ爲ニ生シタル差額ニシテ隻數増加ニ對スル増加額トハ新ニ増加セラルベキ巡洋戰艦二隻、中型巡洋艦二隻、大驅逐艦十一隻、中驅逐艦十六隻、潛水艇四十八隻、特務艦六隻ノ製艦費ナリトス。

製艦費ノ増加三億餘萬圓ニ既定豫算中大正七年度以降ニ支出スルコトナレル金額ヲ加フレハ今後製艦費トシテ支出スベキ豫算總額ハ五億八千四百貳萬餘圓ニ上リ各年度ノ割當額ハ七千五百萬圓乃至一億二千餘萬圓ニ達ス、即チ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

| | 六年迄 | 七年度 | 八年度 | 九年度 | 十年度 | 十一年度 | 十二年度 |
|-----|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 既定額 | 5,000,000,000 | 5,000,000,000 | 5,000,000,000 | 5,000,000,000 | 5,000,000,000 | 5,000,000,000 | 5,000,000,000 |
| 追加額 | 100,000,000,000 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 改定額 | 5,100,000,000,000 | 5,000,000,000,000 | 5,000,000,000,000 | 5,000,000,000,000 | 5,000,000,000,000 | 5,000,000,000,000 | 5,000,000,000,000 |

是ニ由テ之ヲ觀レハ製艦費ニ投ズベキ年額ハ本年ノ新計畫ニ依リ平均約五千萬圓ヲ加ヘ來リ年々平均一億餘萬圓ヲ敷フルニ至リシナリ亦決シテ小額ト云フベカラズ然ルニ此ノ如キ巨額ヲ抛テ製艦ニ從フモ大正十二年ニ於テ得ベキ戰艦ハ八隻巡洋艦ハ六隻ニ過ギズ世人之ヲ八六艦隊ノ完成ト云フ然レトモ詳細ニ之ヲ觀察スレバ大正十二年ニ至ラハ戰艦一隻并ニ巡洋戰艦二隻ハ第二期艦齡ニ達スベキヲ以テ其時期ニ於テ吾人ハ僅ニ七四艦隊ヲ有スルニ過ギサラントス。果シテ然ラハ八八艦隊ノ理想ヲ距ル猶甚タ遠シト謂ハザルベカラズ。

以上ハ大正十二年度ノ計畫ノミ、大正十二年度以後ニ至テモ海軍ヲ有スル以上ハ軍艦ハ年々歳歳新シク補充セサルベカラズ、論者或ハ八四單位ノ二艦隊ヲ建造スベシト主張スルモノアリト雖トモ暫ク從來ノ理想トスル所ニ從ヒ八八艦隊ヲ以テ満足スルトセンモ、大正十二年後ニ於テハ年々少クトモ戰艦一隻并ニ巡洋戰艦一隻宛ヲ製造セサルベカラズ、其價格ハ六七千萬圓ニモ上ルベク之ニ補助艦艇ノ製造費ヲ合算セバ一億圓ヲ以テスルモ猶足ラサルベシ然ラハ則チ製艦費年額約五千萬圓ノ増加ハ決シテ一時的ノモノニアラズシテ將來長キニ巨ルモノト斷セサルベカラズ。

第二、増税案ト議會ノ修正

國防充實計畫ハ經費ノ増加ヲ來シ其額モ一年平均五六千萬圓ニ上レルカ故ニ既定ノ歲入ヲ以テシテハ少カラサル歲入不足ヲ生スルコトナレリ、此歲入不足ハ七年度ニ於テ四百餘萬圓ニ達セルヲ以テ政府ハ之ヲ填補スルガ爲ニ一方ニハ剩餘金二千六百餘萬圓ヲ繰入レ他方ニハ租稅收入專賣益金及通信收入ニ依テ千四百七十餘萬圓ヲ得ントシ、大正八年度以降ニ於テハ歲入不足ハ尙多クナリ行クヲ以テ、減債基金ニ依ル國債償還五千萬圓ヲ三千萬圓トシテ二千萬圓ノ餘裕ヲ得、更ニ租稅收入專賣益金通信收入ニ依テ三千七百餘萬圓ヲ得ントスルノ計畫ヲ立テリ、

剩餘金ノ繰入減債基金ノ繰替ハ暫ク之ヲ措ク、增收計畫ニ就テ之ヲ見ルニ、專賣益金ノ增收ハ議會ノ協賛ヲ要セサルカ故ニ既ニ大正六年十二月ニ於テ製造煙草ノ各品種ニ付キ平均一割七分三厘ノ値上ヲ實行シ、大正七年度ニ於テ四百十餘萬圓大正八年以後ニ於テ八百三十餘萬圓ノ增收ヲ得ルノ見込ナリ、其他ハ皆議會ノ協賛ヲ得サルベカラサルガ故ニ政府ハ案ヲ具シテ第四十議會ニ提出セリ所謂増稅案ナルモノ是ナリ。

増稅案中ニハ戰時利得稅ヲモ存セント雖トモ、該稅ハ專ラ臨時事件豫備費ヲ支辨スルモノトシ臨時稅タルガ故ニ國防充實ニ依テ生スル歲入不足ヲ填補スルモノニアラズ、故ニ茲ニ之ヲ論セズ今所謂増稅案ナルモノノ内容ヲ見ルニ左ノ如シ

- (1) 所得稅ニ於テ大體二割ノ增收ヲ期シテ稅率ノ按排ヲ爲セリ即チ第一種所得ノ稅率ヲ二割増シ第二種所得中社債利子稅率ヲ千分十丈引上ケ第三種所得稅率ヲ約二割増シ之ト同時ニ五百圓未満ヲ免稅ス、
- (2) 酒稅ニ於テ約一割五分ノ増率ヲ爲シ、清酒一石ノ稅金貳拾圓ヲ貳拾參圓トシ、燒酎ハ含有酒精量ニ比例シテ課稅スルノ方針ヲ以テ稅率ヲ改訂シ、酒精及酒精含有飲料稅ノ現行稅金最低限一石貳拾壹圓ヲ貳拾四圓トシ麥酒稅現行一石ノ稅金拾圓ヲ拾貳

圓ニ引上ク、

(3) 酒税ニ對シテ清涼飲料税ヲ起シ清涼飲料一石ニ付キ五圓ヲ課ス、

(4) 砂糖消費税中ニ新ニ監税ヲ起シ、餡糖蜜ト同一視シテ一斤毎ニ貳圓ヲ課ス、

(5) 織物消費税中ニ新ニ莫大小フェルト税ヲ起ハト共ニ縮織物税率ヲ三分引上ケテ一割三分トシ縮織物税率ヲ二分引下ケテ八分トス、

(6) 自家用醬油税ハ現行ノ制限石數五石ヲ一石以下ト改メ納期ヲ一回ニ減ス、

(7) 通行税石油消費税ヲ全廢ス、

尙此外通信收入ヲ増サンカ爲ニ郵便電信料金ヲ引上ク、其額ハ信書ニアリテハ一錢(三錢ヲ四錢ニ改ム)葉書ニアリテハ五厘(一錢五厘ヲ二錢ニ改ム)電報ニアリテハ五錢(一音信二十錢ヲ二十五錢ニ改ム)小包料ニアリテ普通小包二錢(八錢ヲ十錢ニ改ム)書留小包三錢(十二錢ヲ十五錢ニ改ム)トス、

是ニ由テ之ヲ觀レハ増税案ト云フモノ、廢減税ヲ含ムモノニシテ、租税ノ增收ヲ計ルト同時ニ税制ノ整理ヲ企テタルモノト謂ハサルベカラズ、政府ガ社會政策ノ見地ヨリ租税ノ改廢ヲ爲サントスルコトヲ高唱セルハ税制整理ノ趣旨ヲ明ニセシニ外ナラズ。

今進テ増税案中各種ノ收入ニ就テ其性質ヲ檢スルニ、所謂直接税ト稱スベキモノハ所得税アルノミ、酒税清涼飲料税餡糖税莫大小フェルト税自家用醬油税ハ皆消費税ニ屬ス、煙草値上ニ依ル專賣收入ハ嚴格ノ意義ニ於ケル租税收入ニアラストスルモ、其實質ヨリ見レハ、煙草消費税ニ代ハルモノニシテ、煙草消費税徴收ノ一變形ト見ルコトヲ得ベシ、何レニスルモ、ソガ廣ク一般人民ニ依テ支拂ハレ民衆的性質ヲ有スルコト争フベカラズ、從テ主トシテ貧者ノ負擔スル租税ニ準

スベシ。

此見解ニ基キ政府ノ增收計畫ヲ分析シ主トシテ富者ノ負擔スベキモノト主トシテ貧者ノ負擔スベキモノト二分テ收入額ノ豫算ヲ檢スレハ實ニ左ノ如シ。

| 増税所得額 | 大正七年度分 | |
|----------|----------------|----------------|
| | 平年度分 | 增收費節約ニ因ル增收 |
| (1) 酒 | 1,150,000,000 | 2,100,000,000 |
| (2) 清涼飲料 | 2,000,000,000 | 2,000,000,000 |
| 莫大小、フェルト | 2,000,000,000 | 2,000,000,000 |
| 自家用醬油 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 專賣益金 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 廢減額 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 通商稅 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 石油消費稅 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 織物消費稅 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 差引純收入 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 通信收入 | 1,000,000,000 | 1,000,000,000 |
| 總計 | 11,000,000,000 | 11,000,000,000 |

此表ニ依テ之ヲ觀ルトキハ平年ニ於テ直接稅タル所得稅ハ約一千萬圓ヲ増スニ過キサルニ、消費稅其他貧者ノ負擔タルベキモノハ二千二百萬圓ヲ増スコトトナルナリ、尤モ通行稅石油消費稅織物消費稅等ハ專ラ貧者ノ頭上ニ落シルモノナルガ故ニ其廢減ハ貧者ノ負擔ヲ輕クスルモノト見ルヲ得ベク、貧者ノ眞實ノ負擔ハ約千五百萬圓ト計算セサルベカラズ、更ニ換言スレハ政府案ニ

ヨル負擔ノ配分ハ富者ニ對スル貧者ニ割合トナルベシ。

議會ハ此増稅案中稅制整理ノ趣旨ヨリ出テタリト認ムベキモノヲ悉ク否決シ、單ニ所得稅ト酒稅トノ増率ヲ可決セリ、依テ清涼飲料稅餉稅莫大小フエルト稅ノ新設ガ否認セラレシト同時ニ織物消費稅、自家醬油稅、石油消費稅、通行稅ハ全ク從前ノ儘徵收セラレ、何等廢減ノ結果ヲ見ズ通信料モ亦何等増加セラレズシテ止ムコトトナレリ。政府案ヲ承認シタル中ニテモ酒稅中燒酎ニ對スル稅率ヲ改メ之ヲ減シ濁酒ニ對スル稅率ヲ從前ノ儘一石二十圓ニ据置キシヲ以テ酒稅ノ收入ハ政府案ノ收入ヨリモ少シク減スルニ至レリ。

今議會ノ修正ニ依ル增收額并ニンガ貧富兩階級ノ間ニ如何ニ分配セララルカヲ見ルニ左ノ如シ

| 所得稅 | 大正七年度 | 平年度分 |
|------|------------|------------|
| 酒稅 | 2,175,000圓 | 2,875,000圓 |
| 專賣益金 | 1,760,000圓 | 1,760,000圓 |
| 總計 | 3,935,000圓 | 4,635,000圓 |

議會ノ修正ハ政府案ヨリモ、大正七年度ニ於テ二百餘萬圓ヲ減シ平年度ニ於テ七百餘萬圓ヲ減スルコトトナレリ、其貧富間ニ於ケル負擔ノ分配ニ至テハ政府案ヨリモ更ニ甚シキ懸絶ヲ生ジ主トシテ富者ノ負擔ニ歸スベキ所得稅ハ約千萬圓ナルニ反シテ主トシテ貧者ノ負擔ニ歸スベキ消費稅ハ二千餘萬圓ニ上レリ、正シク一ト二トノ比ナリ。

第三、國防充實費ノ財源選擇

國防充實費補填ノ爲ニ企テラレシ増稅案并ニ議會ノ修正ヲ經タル新稅法ヲ批評セントセハ先ツ學理上國防充實費ノ財源トシテハ如何ナルモノヲ選擇スベキカノ觀點ニ立テ論シ次ニ稅制整理ノ觀點ニ立テ論セサルベカラズ。

國防充實費殊ニ製艦費ハ第一段ニ論シタルカ如ク將來永キニ亘ルベキ性質ヲ有ス、假令繼續費トシテ一定ノ期限ヲ付スト雖トモ、其期限盡クレハ又新シク繼續費トシテ更新セラルベキモノナルカ故ニ、年々規則正シク支出セラレサルベカラズ、サレハ國防充實費ハ豫算ニ於テ歲出臨時部中ニ編マルルモ其實經常費ヲ形クルモノト謂ハサルベカラズ、既ニ經常費ノ性質ヲ帶フトセハ、起債ニ依テ之ヲ支辨スベカラズ、若シ起債ニ依テ支辨セン乎、公債ハ累積シテ底止スル所ヲ知ラサルベク、徒ニ現代ノ負擔ヲ後世ニ移シ、財政ノ基礎ヲ弱ムルニ了ラン、是カ故ニ國防充實費ノ財源ハ久キニ亘テ盡キサルモノニ求メサルベカラズ、此ノ如キ條件ヲ充タスモノハ經常收入ナリ、經常收入ハ租稅ヲ中心トスルモノナレハ租稅ヲ以テ國防充實費ノ財源ト看做スモ不可ナキナリ。

國防充實費ノ財源ハ租稅タルベキコト上述ノ如クナルガ、更ニ一步ヲ進テ如何ナル租稅ヲ以テ之ニ充ツベキカヲ明ニセサルベカラズ。^{*}

國防充實費ノ財源トシテ如何ナル租稅ヲ選ブベキカヲ決セントセバ、國防費ノ支出ガ經濟上如何ナル效果ヲ生スルカヲ知ラサルベカラズ。

國防充實費ガ國庫ヨリ支出セラルルヤ之ヲ受クルモノハ種々ノ階級ニ於ケル個人經濟ノ主體ナ

* 第四十議會衆議院委員會議錄第五卷第一號一六頁小川郷太郎質問
第四十議會衆議院議事速記錄第八號一二三頁小川郷太郎演說

ルベシト雖トモ、其最モ主ナルモノハ資本家ナリ、而シテ資本家ハ之ニ依テ大ニ利シ愈々富ムベキ也、之ヲ製艦費ニ就テ見ルニ、軍艦注文ヲ受クルモノハ有數ノ造船所ナラザルベカラズ、而シテ造船所ハ鐵材木材其他ノ原料ヲ得且ツ蒸氣機關電氣機械其他軍艦中ノ諸設備ヲ得サルベカラス、而シテ其鐵材ノ製造、木材ノ搬出、諸機械ノ製造ニ從事スルモノハ大資本家ナラサルベカラス、鐵材木材、諸機械ノ賣買并ニ運搬ニハ金融機關、保險機關并ニ運送機關ノ助ヲ借ラザルベカラス、金融機關保險機關并ニ運送機關ハ大資本組織ナルヲ常トスルカ故ニ亦資本家ノ代表ト爲スベシ、而シテ造船所ヨリ製鐵所、機械製造所、木材商、銀行、保險會社、運送會社等ニ至ル迄、皆是等ノ取引ニ依テ利スル所ナカルベカラズ、何等利スル所ナクシテ取引スルハ營業ノ趣旨ニ反スレハナリ、製艦費ハ大正七年ヨリ大正十二年度ニ至ル迄ニ、五億八千萬圓ヲ算シ一年平均一億圓ニ上ル、而シテ此巨額ノ製艦費ハ先ツ資本家ノ手ニ入り、資本家ノ利スル所トナルナリ、果シテ然ラハ國防充實費ハ先ツ富者階級ヲ富マスモノト謂ハサルベカラズ。

此ノ如ク國防充實費ノ支出ニ依テ直接ニ富ムモノハ富者階級ナルガ、國防ノ充實スルニ從テ間接ニ大ナル利益ヲ受クルモノモ亦富者階級ナリ、蓋シ國防ガ充實スレハ充實スル程、國威發揚シテ商權ノ保護厚キヲ加ヘ、天外萬里ニ富源ヲ開發スルコト益々容易トナレハ也、商船ガ軍艦ニ先テ進ムカ軍艦ガ商船ニ先テ進ムカハ其國民ノ國民性ニ依テ異ル所アルベシト雖トモ、商船ガ世界ノ海上ニ雄飛スルノ時ハ軍艦ガ其背後ニ在ルコト亦爭フベカラズ、軍艦ハ畢竟商船ノ保護者ナリ、商船保護セラレテ商品保護セラレ、商品保護セラレテ商工業者亦保護セラル也、而シテ海外貿易

ニ從事スル商業者、海外貿易品ヲ製造スル工業者ハ、大資本家ナルヲ常トス、故ニ曰クハ、國防充實ニ、ニルニ從テ大ナル利益ヲ受クルモノハ、富者階級ナリト。

富者階級ハ此ノ如ク國防充實費ノ支出ニ依テ直接ニ富ミ、國防充實スルニ從テ又間接ニ富ムモノナリ、既ニ然リトセバ富者階級ハ主トシテ國防充實費ヲ負擔セサルベカラズ、勿論現代ノ租稅ハ各人ノ受クル利益ニ對スル代價ト見ルベキニアラズ、富者各人ノ受クヘキ利益ヲ計算シテ之ニ應スル租稅ヲ負擔スベシト云フニアラズ、只富者階級ハ國防充實費ヲ補填スルカ爲ニ主トシテ富者階級ノ負擔ニ歸スベキ租稅ヲ支拂フベシト云フノミ、若シ富者階級ガ國防充實ニ依テ益々富ムニ拘ラズ、自ラ其國防充實ノ爲ニスル租稅ヲ負擔スルコトヲ爲サズ、貧者階級ヲシテ之ヲ負擔セシメン乎、富者ハ貧者ノ血ヲ吸テ自ラ肥ユルト云フモ亦辯解ノ語ナカルベク、社會ノ正義ハ地ヲ拂テ空シト謂ハサルベカラズ、貧者ガ富者ノ奴隸トナリテ自ラ安ンジ社會ノ正義地ニ落テ敢テ怪マサル世ナリセバ、事茲ニ至ルモ國家組織ヲ危フスルコトナケンモ、貧者ヲモ教育シ之ニ自覺ヲ促シツツアル現代ニ於テ、此ノ如ク社會ノ正義ヲ蹂躪シテ願ミサランニハ、貧民階級ノ不平ハ何時勃發シテ終ニ社會革命ノ爆裂彈トナリテ現ハレ來ルヤモ測リル知ベカラズ、是レ所謂危險思想ヲ煽リ社會生活ヲ不安ナラシムルモノニアラズシテ何ゾヤ、富者階級自ラ保チ兼テ國家組織ノ安固ヲ期セントセバ決シテ社會正義ヲ蹂躪スベカラズ、從テ又富者階級當然ノ負擔ヲ辭スベカラズ、之ヲ要スルニ、國防充實費ハ其經濟的効果ヨリ見テモ、主トシテ富者階級ノ負擔ニ歸セシムベキモノト謂ハサルベカラズ。

更ニ進テ租税理論ヨリ之ヲ觀ルニ租税ハ負擔力ニ從テ課スルヲ原則トス、而シテ富者ハ最モ負擔力ニ富メルモノナルガ故ニ國防充實ノ爲ニ生セル歳入不足ヲ補填スルニ富者ノ負擔スベキ税ヲ以テスルハ正當ト謂ハサルベカラズ、思フニ我邦ニ於テモ從前ヨリ貧富懸絶ノ傾向漸ク現ハレ來ラントセシガ、今次ノ世界戦争ハ此勢ヲ激成シ富者ガ益々暴富ヲ累ネタルハ論ヲ駭タサルコトナシテ何ヲカ捕フベキ、若シ富者ノ急激ニ富ミツツアルヲ見乍ラ、之ニ税セズ、却テ生活難ニ苦ミツツアル一般庶民階級ニ税セン乎、租税ハ却テ貧富懸絶ヲ助長スルモノトナルベシ、是レ社會政策ノ上ヨリ見テ斷シテ許スベカラズ、社會政策ノ上ヨリ云ヘバ、富者階級ニ最モ重ク税シ貧者階級ニ最モ輕ク税スベシ殊ニ今日ニ於テ其必要アリトス。之ヲ要スルニ租税ノ原理ヨリスルモ社會政策ヨリスルモ今日ニ於ケル増税ハ富者ノ負擔ニ歸スベキモノヲ主トセサルベカラズ。

國防充實費ノ財源ハ上述ノ如クニシテ之ヲ主トシテ富者階級ノ負擔ニ歸スベキ税ニ求メサルベカラズ故ニ所謂直接税ヲ増徴スルコトヲ得バ最モ其趣旨ニ適フベシ之ヲ上策トス、獨逸ガ歐洲大戰ノ勃發ニ先チ即チ一九一三年ニ軍備ノ大擴張ヲ爲シ其經費ノ財源ヲ財產税ニ求メタルガ如キ最モ此要求ヲ充タシタルモノト謂フベシ、然ルニ若シ財源豊ナラズ、消費税其他貧者ノ負擔ニ歸スベキ租税ヲモ増徴セサルベカラズトセバ是等ノ税ハ所謂直接税トヲ結ヒ付ケ後者ヲ重クセサルベカラズ、斯クシテ富者ノ負擔ガ貧者ノ負擔ヨリ大ナラバ、社會ノ正義ハ尙之ヲ維持スルコトヲ得

ン、之ヲ中策トス、若シ直接税ト消費税トヲ結ヒ付ケ、後者ノ増徴額前者ノ増徴額ニ超過スルガ如キコトアラバ貧者ノ負擔ニ歸スベキ租税ガ國防充實費ノ主ナル財源トナリ、明ニ前述ノ原理ニ反スルコトトナルベキ也、故ニ其缺點ヲ補ハントセハ他ノ消費税ヲ廢止又ハ輕減シ、全體ニ於テ貧者階級ノ負擔ヲ減スルコトトナササルベカラズ、之ヲ下策トス。

今政府ノ増稅案ヲ見ルニ上策ニモ出テズ中策ニモ出デス、實ニ下策ニ出テタルナリ、即チ直接税タル所得税ニ并テ多クノ消費税ヲ増徴セルト同時ニ他ノ消費税ニ廢減ヲ行ヘル也、論者或ハ一方ニ増稅ヲ爲シ他方ニ廢減稅ヲ爲スヲ以テ矛盾ノ政策ナリト笑フモノアレトモ、然

ラズ、若シ廢減稅ヲ爲ササレバ、貧者ノ負擔ニ歸スベキ税カ重キニ過キテ正義ヲ蹂躪スルニ至ラシ、其廢減稅ヲ加味スルハ偶々此弊ヲ除キ、増稅ヲシテ可成國防充實費ノ財源選擇ニ關スル理論ニ近カシムル所以也、例ヘハ、消費税其他貧者階級ノ肩上ニ落ツベキ租税五ノ數字ヲ以テ示スベキ程度ニ止ムベキニ拘ラズ租税技術又ハ他ノ理由ニ依テ八ノ數字ニテ示サルベキ税ヲ課シタリトセンニ、同一性質ノ他ノ税ニ於テニテ減セントスル也、此方法ハ加算ト減算トヲ合セ用フルモノニ過キズ、之ヲ笑フモノハ加算アルヲ知テ減算アルヲ知ラサルノ徒ナリ、自ラ其愚ヲ表白スルモノト評セサルベカラズ。*

政府ノ増稅案ハ此減算ヲ合セ行フノ政策ヲ採リタルモノナルガ、尙之ニ依ルモ、富者ノ負擔ニ歸スベキ税ト貧者ノ負擔ニ歸スベキ税トハ既ニ述ヘタルカ如ク二ト二トノ比例ニシテ却テ後者ノ多キヲ見ルナリ、學理ニ反スルノ政策ト云ハサルベカラズ、然レトモ若シ廢減稅ヲ除去センカ、

其増税計畫ノ非理ハ愈々大トナラン、是カ故ニ廢減税ハ此増税計畫ニ離スベカラサル組織分子ヲ爲スモノト謂フベク、單ニ税制整理ノ趣旨ニ出テタルモノトナスベカラズ。

議會ノ修正ハ所得税酒税増收ニ止メタルカ故ニ一見簡單明瞭ノ如キモ増税計畫ノ離スベカラサル組織分子ヲ離シタルカ故ニ増税計畫ノ全體トシテハ却テ改惡ノ嫌ナキニアラズ、其直接税ト間接税トノ比ガ一ト二トナリ、登者ノ負擔富者ノ負擔ノ二倍トナレルカ如キハ最モ之ヲ批難セサルベカラズ。

第四、税制整理ト増減税

國防充實費ノ財源トシテハ所謂直接税ヲ撰ハサルベカラサルコト、若シ所謂間接税ヲモ増徴スルトシテモ所謂直接税ニ重心ヲ置カサルベカラサルコトハ前段述ヘタルガ如シ、更ニ進テ税制整理ノ上ヨリ見ルニ所謂直接税ト所謂間接税トノ間ニ均衡ヲ得ルコトニ最モ重ヲ置カサルベカラズ、然ルニ從來ノ我邦租税制度ヨリスレハ所謂直接税ハ比較的輕クシテ所謂間接税比較的重シ今之大正五年度ノ現計并ニ大正六年度大正七年度ノ豫算ニ徴スルニ左ノ如シ

| | 大正五年度現計 | 大正六年施行豫算 | 大正七年豫算 |
|---------|---------------|---------------|---------------|
| 一、直接税 | 1,347,371,123 | 1,311,121,233 | 1,374,327,111 |
| (1) 地租 | 1,075,151,333 | 1,075,151,333 | 1,075,151,333 |
| (2) 所得税 | 272,219,790 | 272,219,790 | 272,219,790 |
| (3) 營業税 | 3,000,000,000 | 110,000,000 | 227,000,000 |

* 第四十議會衆議院議事録第八號一二三頁、小川郷太郎演説

題ニ觸ルル所ナシ、勝田藏相ハ負擔ノ均衡ヲ切論スルモ、富者階級ト貧者階級トノ間ニ於ケル負擔ノ均衡ニ關シテハ、與リ知ラサルガ如シ、是レ豈本末ヲ顛倒スルノ甚シキモノニアラズヤ、加之増稅案ニ依レバ平年ニ於テ直接稅ヲ增スコトハ千萬圓ニ過キサルニ、消費稅其他貧者階級ノ負擔ニ歸スベキ租稅ヲ增スコトハ千五百萬圓ニ及ヒ、益々富者ト貧者トノ間ニ於ケル負擔ノ均衡ヲ破ラントセリ、稅制整理ニ逆行スルモノニアラズシテ何ゾヤ。

然レドモ政府案ハ猶可ナリ、議會ノ修正ニ依ル増稅ニ至テハ更ニ不可ナルモノアリ、平年ニ於テ直接稅ヲ增スコト壹千萬圓ナルニ拘ラス消費稅ヲ增スコト二千萬圓ニ過ギ、富者貧者ノ負擔ヲシテ益々均衡ヲ失ハシムルニ至レハ也。尤モ此結果ハ大正八年以後ニ至テ明確ニ現ハルベシ、大正七年度ニ於テハ未タ十分ナラズ、蓋シ増稅ノ初年ハ所期ノ收入ヲ得難ケレハ也。

國防充實費ノ財源トシテ租稅ヲ増徴スルニ當リ、勞々現時ノ稅制ヲ整理スルハ、事ノ性質ニ於テ惡シシト云フベカラズ、唯政府案ガ稅制整理ノ根本問題ヲ閑却スルヲ惜ムノミ、然ラハ政府案ニ依ル稅制整理トハ何ソヤト云フニ、酒稅ニ對シテ清涼飲料稅ヲ起シ、砂糖消費稅ニ對シテ飴稅ヲ起シ、織物消費稅中ニ莫大小フエルト稅ヲ起スト同時ニ絹織物稅率ヲ上ホシ綿織物稅率ヲ下ケ、自家用醬油稅ノ造石制限ヲ一石以下トシ、石油消費稅、通行稅ヲ廢止セントスルニ過キズ、故ニ消費稅其他貧者ノ負擔ニ歸スベキ租稅ノ整理ト云ハサルベカラズ。

今消費稅其他貧者ノ負擔ニ歸スベキ租稅ノミノ整理ヲ必要トスト假定シテ政府案ヲ檢セハ、亦一應ノ理由ナクンバアラズ、蓋シ消費稅ハ同一ノ目的ニ使用セラルベキ消費財ニ對シテハ普ク稅

スベク、決シテ一ヲ稅シテ他ヲ逸スベカラズ、若シ一ヲ稅シテ他ヲ逸セン乎、豈ニ普遍ノ原則ニ反
スルノミナラズ、租稅ニ依テ一財ノ消費ヲ抑ヘ他財ノ消費ヲ獎勵スルコトナリ、不公平ノ結果
ヲ生スベシ、是レ稅制トシテ最モ避ケザルベカラズ、此見地ニ立テ之ヲ觀レハ酒ヲ稅スルカラニ
ハ同シク飲料トシテ盛ニ行ハレツツアル清涼飲料ヲモ稅スルハ至當ナルベク、砂糖ヲ稅スルカラ
ニハ之ト同シ目的ニ消費セラルベキ餘ヲ稅スルハ不當ニアラズ、又織物ニ稅スルカラニハ、之ト
使途ヲ同フスル莫大小フエルトヲ稅スルハ理ニ於テ誤ラズ、又織物稅中絹織物ト綿織物トハ其之
ヲ消費スル人ノ富力ニ差アル以上稅率ヲ異ニスルヲ沒理ト爲スベカラズ、又家用醬油稅ガ徒ニ
徵稅費ヲ多ク要スルニ過キサルノ憾アルカラニハ造石制限高ヲ一石以下トシ徵稅期ヲ一回ト爲ス
モ一應理由アルモノト爲ササルベカラズ、石油消費稅ハ最下級人民ノ負擔ニ歸シソレ自身惡稅タ
ルノミナラズ比較的富裕ノ人ノ消費スル電燈瓦斯ニ稅セサル以上、負擔ノ均衡ヲ期スルガ爲メニ
之ヲ廢セサルベカラズ、通行稅ハ長距離間營養ナル運送機關ヲ利用スルモノニ對シテ之ヲ課スル
ノ理由ハアレドモ今日ノ通行稅ハ主トシテ電車乘用者ニ課スル稅トナレルガ故ニ貧民稅ト謂ハサ
ルベカラズ、之ヲ廢スルハ當ヲ得タルモノト謂フベキ也。

以上ハ消費稅其他貧者ノ負擔ニ歸スベキ租稅ノ整理ニ就テイヘルノミ、然ルニ政府案ガ稅制ノ
整理ヲ此範圍ニ止メタルノ理由ニ至テハ之ヲ知ルニ由ナシ、恐ラクハ、此等ノ稅ニ就テ偶然ニモ
取調成レルガ爲メナラン、然レトモ我國ノ稅制ニ於テ眞ニ整理スベキモノアリトセハ消費稅流通
稅ノ範圍ニアラズシテ寧ロ直接稅ノ範圍ニアリ、余ハ增稅案委員會ニ於テ藏相ニ質問シ直接稅中

願ル負擔ノ均衡ヲ得サルモノアルコトヲ指摘シテ左ノ如ク云ヘリ*

富者階級ニ課スベキ稅ハ今日非常ニ不權衡トナツテ居ル、今假リ二十萬圓ナラ十萬圓ノ金ヲ持テ居テ之ヲ投資スルトセンニ、土地ヲ買ツテ置クコトモ出來ルシ、營業ニ投シテ營業ヲナスコトモ出來ルシ、或ハ更ニ進テ有價證券即チ公債證券ヤ社債券ヤ株券等ヲ買テ置クコトモ出來ル、其他種々ノ投資方法ガアルノデアリマス、今土地ニ投資スレハ稅ハドウナルカト云フニ地租ヲ課セラレ同時ニ所得稅ヲ課セラレルノデアリマス、之ヲ營業ニ投資スレバ、營業稅ヲ課ケラレ同時ニ所得稅ヲ課ケラレルノデアリマス、之ヲ國債證券ニ投資スレハ何モ課ケラレナイ、之ヲ他ノ社債券ニ投資スレハ唯利子ニ對スル千分ノ三十ノ稅ヲ課ケラルノミデアリマス、之ヲ株券ニ投資スレバ、株式會社ノ所得ニ對スル千分七十五ノ比例稅ガ間接ニ影響スルカモ知ラナイガ、先ツ何モ課ケラレナイト云ツテヨイ、而シテ財產階級ニハ地主モアリマセウ、商工業ヲ營テ居ル營業者モアリマセウガ、營業者アモナク地主アモナクテ、株券ヲ持チ國債證券ヲ持ツテ居ル人が澤山アルト思ヒマス、而シテ商工業ノ發達經濟ノ進歩カラ云フト、學者ノ云フ通り、不動産時代カラ動産時代ニ入ルノテ、現代ハ段々動産時代即チ有價證券時代ト化シツツアルノデアル、然ルニ有價證券ヲ持ツテ居ル人が殆ト負擔ナセナイト云フノハ非常ナ不權衡ナコトデアル、今日ハ富カ非常ニ殖エテ來タ、戰爭ニ依テ非常ニ富ンダ者が出來タ、ソレハ地主デナク、寧ろ商工業者并ニ有價證券ヲ持ツタ人ノ間ニ發見セラるノデアリマス、ソレノニ其有價證券ヲ持ツテ居ル者二十分ノ負擔ガ課カラナイノデアル、是ハ何ト云ツテモ今日日本ノ稅制ノ缺陷ト云ハチハナラス、若シ稅制ヲ整理スベクンハ、此缺陷ヲ整理スルノガ一番大切デアル、サウイフ重大ナ點ナスツカリ閉却シテ、イヤ船稅ダトカ、莫大小フエルト稅トカ清涼飲料稅ダトカ云ツテ、消費稅ノ一小局部ニ屬シテ居ルノハ大勢ニ通セザル稅制整理デナイカト思フノデアリマス、偶々此ノ調ガ出來テ居ツタカラ是レ丈ク稅制整理案トシテ出スト云フカ如キハ宜キナ得タモノデナイ云々

余ノ茲ニ行ハントスル所ハ殆ト此質問演說ニ於テ盡ク、故ニ贅セス、要スルニ、稅制ヲ整理セントセハ、最モ力ヲ直接稅ニ注カサルベカラズ、單ニ消費稅ノ一部ヲ整理シテ稅制整理ノ名ヲ銜ハ

ントスルガ如キハ斷シテ不可ナリ、吾人ハ異日、直接税ニ亘リ消費税ニ亘リ根本的ニ税制ノ整理セラルベキコトヲ切望シテ已マサルモノナリ。

第五 結 論

上來述ヘシ所ヲ以テ之ヲ觀ルニ國防費ハ富者階級ノ負擔ニ歸スベキ租税ヲ以テ財源ト爲スベク、假令貧者階級ノ負擔ニ歸スベキ租税ヲ以テ之ヲ補フノ已ムナキニ至ルモ主力ハ之ヲ前者ニ置カサルベカラズ換言スレハ直接税ヲ中心トシ已ムナキ場合ニ消費税流通税ヲ以テ之ヲ補フベキノミ、然リ而シテ從來我國ノ税制ハ直接税ニ輕ク消費税ニ重ク、富者貧者ノ間ニ負擔ノ均衡ヲ得サルモノナルガ故ニ根本的ニ税制ノ整理ヲ行フノ必要アリトス、若シ國防充實ノ爲ニスル財源ヲ直接税ニ取り大ニ之ヲ増徴スルノ策ヲ採リシナラハ啻ニ經費調達方法ガ學理ニ適フノミナラズ、併テ根本的ニ税制整理ヲナスコトヲ得ベカリシ也、然ルニ政府ノ策ハ茲ニ出テズ、直接税ニ對シ消費税ニ對シ増徴スルノ案ヲ立テ且ツ税制整理ニ名ヲ借り新税ヲ起スト共ニ通行税石油消費税ヲ廢セントセシガ、議會ハ税制整理ヲ斥ケ國防充實費ノ爲ニ所得税ノ増率ヲ承認セリ、其結果ハ直接税ニ對シ消費税四ヲ増徴スルコトトナリ富者貧者ノ間ニ於ケル負擔ノ不均衡ハ一層甚シキヲ加フルニ至レリ、由來通行税石油消費税ノ廢止ハ税制整理ト云ハンヨリモ直接税ト消費税トノ間ノ不權衡ヲ矯メ且ツ國防費ノ財源ヲシテ合理的タラシムルニ必要ナルモノナリシ也、其議會ニ於テ空シク葬了セラレタルハ惜ムベキ也、要スルニ大正七年ニ於ケル租税立法ハ税制ノ進歩ヲ促サスシテ却テ退歩ヲ來セリト斷セサルベカラズ。